

弘化二年

市中御用留

己丑五月金子孫守

元日天子御幸御所口手改口祝儀し々事

十日ヲ用始之事

左内丹使事及之と事跡川城記より
 正徳ノ年揚子又按方月海島介ソ徳元
 元六文加入多之と事跡川城記より
 送此書所入宝臺抄号十七江新ノ教書場
 了弱江戸長子金と事跡川城記より

久しからず大坂部
 公迄の長柄より此の
 大坂部より此の
 大坂部より此の
 大坂部より此の

金小孫下子

名公以之

去ん正保十四年
 門前七新所下子

貞次郎口作川以弘義事利下長今時
 藏部及都令口人紙正西子り我川石
 比中友人江戸表分口乃仕和共は腹為以在
 中我知種命多し中多和共は西子り沙在
 くり内談口と泉教口以出除共は信共は飛
 者建比多能洪所相了信金子貨分ト交
 中為在口比由之口比益也共は下也四談所
 我江戸表親人分元之信ハ和共確共は年益
 中比り延り口知共ハ比共今ト知身元之信ハ

[illegible]

批合、亦、接、持、に、消、平、シ、キ、モ、成、ル、形、多、キ、邊
 木、中、以、テ、五、接、取、下、リ、ト、其、後、繰、リ、減、部、及
 七、五、方、ハ、方、ノ、批、合、化、代、有、知、ル、舞、知、セ
 二、情、市、下
 以、屋、形、様、ハ、新、古、ノ、下、上、有、而
 中、金、招、有、ル、決、入、用、金、ヲ、取、リ、金、ノ、次
 一、金、買、取、分、下、取、テ、
 以、戸、代

一、金、式、有、各、式、朱

以、上、係、代
 用、入、用、排

一金式友

其政事に決入用し他者親信に事より不承
ありて安んず候中

一令吉民衆

決入用し他者
不承

一令吉民衆

政事に決入用し他者親信に事より不承

入金中一札に事

去る年十二月中泉所殺出少陰候に事度并
宗義下子死七歳及心与所事所義事

世分位元木以新田、おぬれ、如舊路之休ハ
 市者丁子屋、なま、及、其後、とて、な、り、我、者
 清、乃、江、信、お、ぬ、子、休、り、り、口、人、金、一、百、兩
 信、之、元、中、和、交、而、信、之、如、舊、路、之、休
 、休、中、及、ふ、り、其、新、お、ぬ、り、交、之、お、ぬ、
 金、一、兩、信、之、り、件

天保十七年

辰二月

紙尾

改より

伊勢屋吉兵衛

弘化二年

泉

二二

伊勢石卷

[illegible]

琴

沈氏
征字占

卷之五

沙家七新所花苑臨門失利平居也本
年一月私逃去冬十月中本以所心為

与中より手月々以
 紙屋政中へ系泉所いせや屋表六らりもの
 組今と書き決京川とてるる所金貨後し
 以叔仕交便を新よりとて取中へ手紙可
 以左の丹波と様と書き来歸り織部屋と
 仁右新決向ふ所とて交與と書きとて打し西倉仕
 其後と書き兼中統仕と書き知と書き七月と書き
 升しと書き人元と書き次及と書き仁風と書き
 子越と書きとて織部屋と書きとて西倉と書きとて

身分迷惑ハ有ニ共ニ止ムトヤ、
 仕途中ハ新所法就ラリモノ
 其友曰ク是ハ人ニ也、
 有テ所^一靈^二をラリ新所系也、
 花車ニ序ハ、
 新所變イヨリ日入ルヲ踏込キ、
 吾ハ鐵部及中ノ^一去年月^二ある^三口^四石^五虎
 大板^六新所^七相^八ら^九る^{一〇}新所^{一一}用^{一二}ニ^{一三}中^{一四}新所^{一五}用^{一六}向^{一七}面^{一八}
 折^{一九}ス^{二〇}依^{二一}ル^{二二}者^{二三}乙^{二四}月^{二五}才^{二六}取^{二七}ル^{二八}出^{二九}ル^{三〇}者^{三一}ハ^{三二}懐^{三三}人^{三四}な^{三五}

高野身より一寄るに任し我親族に代令る教
 少敷いなり候心なりと有私に突教にて分身教
 占る新に候し中と云謂金子と云ふ事なり
 違背と云ふことあり及口論に新より違違あり
 何にても相違生じ及是れに但少敷く知金子
 三指と相違し中指今金子より少敷く上事
 十指の金指あり候事と云ふ事と云ふ事
 十指の金指あり候事と云ふ事と云ふ事
 十指の金指あり候事と云ふ事と云ふ事
 十指の金指あり候事と云ふ事と云ふ事

孝人、王後、父、母、人、子、之、家、遠、大、後、一、
 一、札、折、入、懸、後、作、始、末、お、い、う、百、列、今、至、後、堂、
 五、河、市、私、重、不、過、事、う、金、子、食、元、百、金、出、後、
 子、其、及、心、子、玉、柱、お、い、う、百、列、今、至、後、堂、
 所、一、以、所、一、以、所、一、以、所、一、以、所、一、以、所、
 七、事、以、後、お、い、う、百、列、今、至、後、堂、
 以、威、走、り、以、以、威、走、り、以、以、威、走、り、以、以、威、走、り、

三保十三年辰月十三日

伊予縣院門外

利上三郎

七下

以故樣

晉書

比後新樣

太田丹波守及之丞來流の減部と老子龍子
原初より文抄より日偏伊勢屋表立を八
島より七條伏し去我々来り受けおくり
て矣彼新日新書大治よりおはる金書に
尋ふべし知少部よりいへり此より減部

公途は長柄のれあふりり大所ああ神
 ありしとくおれは是に趣きり去るありし
 秋あふれり以て運き路へおれ去りて水へ
 七下ふふははは打込おれり上へ保てり
 我ふは明りおれり以ておれり上へ
 公途は法はるる奇指しはははあふり
 おれりしはははあふりしはははあふり
 夫形はははあふりしはははあふり
 掃りしははあふりしははあふり

讀波多教公例年之通
清康年改氏轉受元上八人
來ん十二。に元氣是を越え
中合お振し通定交より
十古
此康平將出所高あり
去、今分村の長越一石あり十六、陽龍山
南公様めふ様法墓新のり成將共種
若くはし桑江新記ら下ふし部々止
と過客交よりなり

可なり

市石多し

上家次郎

持慶寺様おしとをいふとまじし

漬物と称しは作しふりては新記にふくま

ふりては世にふりては

東山寺後古に伝ふ

此寺にハナリテハ

此寺にハナリテハ

何ん否乎逢ひをふしん

りりりり

多子孫を

此部りりり

令云及至令

浪云及至令

〇式及至令

浪云及至令

〇及至令

少林法健

蘭部本後

款谷云仙

令以安否乃以年

根以久

山名情

吾十数后病人至療治之乃業終代
以来至

足

以是
其地強治中

吾、西但内能、子但、擇上、去、十七、年、組、
お、也、十、に、依、り、は、あ、る、と、い、ふ、に、王

正月

足

金子友

びんお新

五

白の上をん

十

五

段

新

口

ん

ら

抱

し

あ

ろ

ん

か

し

ん

ら

右

百り十

五

段

新

口

ん

ら

抱

し

右

金子友
打勾新

関定六

金子友

言ク世に於て又片所下るに
 蓋板下之破るは梶崩しと云ふ
 夜中にも來ておとしに怪我
 量るる墨土は又ちりしに
 多しは自出堀に倒れ出取
 入口山本中より様板又
 或る所より出る水は
 以前に備へておとしに

己丑月

市部以事所新様

小林孫平

徳色令

泉町度小路所及所善法并片要水授若櫃
 所及所善法并片要水授若櫃
 有所如口并金若水家寄以堀成所
 与と及善法所及所新出る大内所及
 大内所及

古月亦石

法自以和

多子孫

之記所書美材の泉所は淡路古島様
 来り廿三日より無行仕合と云ふは
 有り廿日
 金子孫子

五、九月、ふいに、口を考へる、指、

少日有之

一揉來几亦云神口興折北北

暮合之長分より混雜なる舞臺様式
堀尾を擬文々明一を主下なるは奥の白土

三河王

泉子

ちろ武

山内人使中

新書し内中おる書白土次格中

二月

泉子 三河

浪那氏事門新様

三河王

少杉氏事

私嫡女下総玉匠部春海村百姓春海
妻、今般大府、以、今、秋、卯、川、東、行
弓、通、玉、匠、部、春、海、村、百姓、春、海、
妻、之、以、秋、卯、川、東、行、
十七、之、以、秋、卯、川、東、行、
之、以、秋、卯、川、東、行、

白り九百

之、以、秋、卯、川、東、行、

之、以、秋、卯、川、東、行、
友、行、嫡、女、下、総、玉、匠、部、春、海、村、百姓、春、海、
妻、之、以、秋、卯、川、東、行、
之、以、秋、卯、川、東、行、

一、以故、予、其、我、身、之、條、未、可、交、與、而、所、以、
 致、此、者、予、之、過、也、而、其、所、交、與、之、人、亦、有、其、過、也、

百

今并新平

五、新、西、大、方、七、年、元、日、是、日、成、

私を病に^る自^ら然^らと^も過^るに^も生^るに^も分^るり^と教^へて^も可^し
 少^く暇^を有^るに^も以^て其^の分^を盡^すは^らぬ^と思^ふは^らぬ^と

可
日
五

多相友

五子月廿三日

下

諾

即二五并寺五山
二版一子以方く由二回懷二

信公集世々

うりあしきや

他より事なきやに止るをなて振るべき、口を張

に日九しきの四月十九日、後あり

右に所あるを能く心づかぬ者

以件士教新不、早く

支那新 寺重智の命所、此後者元と来
いふ所、友九人、能く火之元、先連、元

泉竹 李長石名本才、止而、代在之、りり子孫
李長石、ふたつてゆゑ

下金所永限所法告悻弱去々々口口所
之所目衰通々々所限拾ひて所々々々々々
角々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
中々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
中々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

二

今井新五

江戸
本
所
不
出
る

学校に普託を求むる不承の函付届に上
達せしるは其の承を以て候と

うり

上書張月

西の部月

青柳村

本太寺

下太寺

上三

八

吉上

お根元

寺

西の部の年々
上書張月

本太寺

下太寺

上三

寺上

お根元

寺上

西之者為己三千年 且役先陣中解

泉所

三夏昨
保小東

上金介

三三
保小東

西ハ者三千年 且役先陣中解

上下所造鐵人丸弱ハハ代出之云居戸ハ其
之便利也其格支ハ名大市ハ其ハ其ハ其ハ其
ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其
ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其
ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其ハ其

おき下 新候 ぬきま

うり十石

正無後戸

西 郡 戸

水戸下 徳國 匠 匠 部 春 海 村 戸 候 在 在 中
 妻 二 病 用 三 石 口 取 十 石 口 取 三 石 口 取 三 石 口 取
 未 手 取 取 三 石 口 取 三 石 口 取 三 石 口 取 三 石 口 取
 此 候 在 取 三 石 口 取 三 石 口 取 三 石 口 取 三 石 口 取

二月

高 稻 左 佐

走死所孝慈打の多所 貴人拾以函之抄卷
 氏嫡女病身之新之上去月十八日也之云云
 自療あか江子手放棄也云云之口教六日
 日延之候所之通教也云云病弱候云云
 候云云之云

二月

足ん

金更

丸

以之新抄

今并新年

侯四年今
第地市之

西のまへ十八のお江戸表江戸の接永にや
 江戸のまへは江戸のまへにや

うりまへ

江戸のまへにや

今升新平

天手三番町に江戸のまへにや

幸分は江戸

江戸のまへにや

本振成にや

忠七女房

若子

吾ハ有尋ミ及ミしと云宿役人持原ヨリ傳
 へしと持方ヨリ持出と稱ミ事ヨリ中後至しに
 一リヤナリ

此是女

此記所寄要村の馬に事所出と感ミテ并
 此支記所麻多由久と云方人とも無事
 若持命にあのり不子九下候買込流西傳致
 然不中買上と救殺と云交方先と事付出
 才麻より優揚と云川に云事付口より出

乃大下へ遷殺為る事、是年、
 此市に進入、亦、此市に進入、
 乃、此市に進入、亦、此市に
 依、此市に進入、亦、此市に
 此市に進入、亦、此市に
 此市に進入、亦、此市に

二り、此市に

此市に進入

今、此市に

五元可常多也所納月改爲市代川月保立處
 伊路月產六元一の、得て成るる方ある
 其月納金満多由五元迄の間に中束方ある
 法人代納村強き處の、その納金と升七
 市代川保立方、其の納金と升七
 此所納金と升七

正り升七

印

と升七

市代川保立

以飛柳鳴之長石暖亭
 柳若藤花之如藤
 中流續河古後
 以月一花之

古名
 細民

上中村
 重子

古
 重子

古
 重子

中流
 重子

水戸市 水戸市

水戸市

水戸市

水戸市

水戸市

水戸市

水戸市

水戸市

水戸市

水戸市

水戸市

長安中

弘治三子己二月

江戸久照回町

満玉屋助助殿

吉村

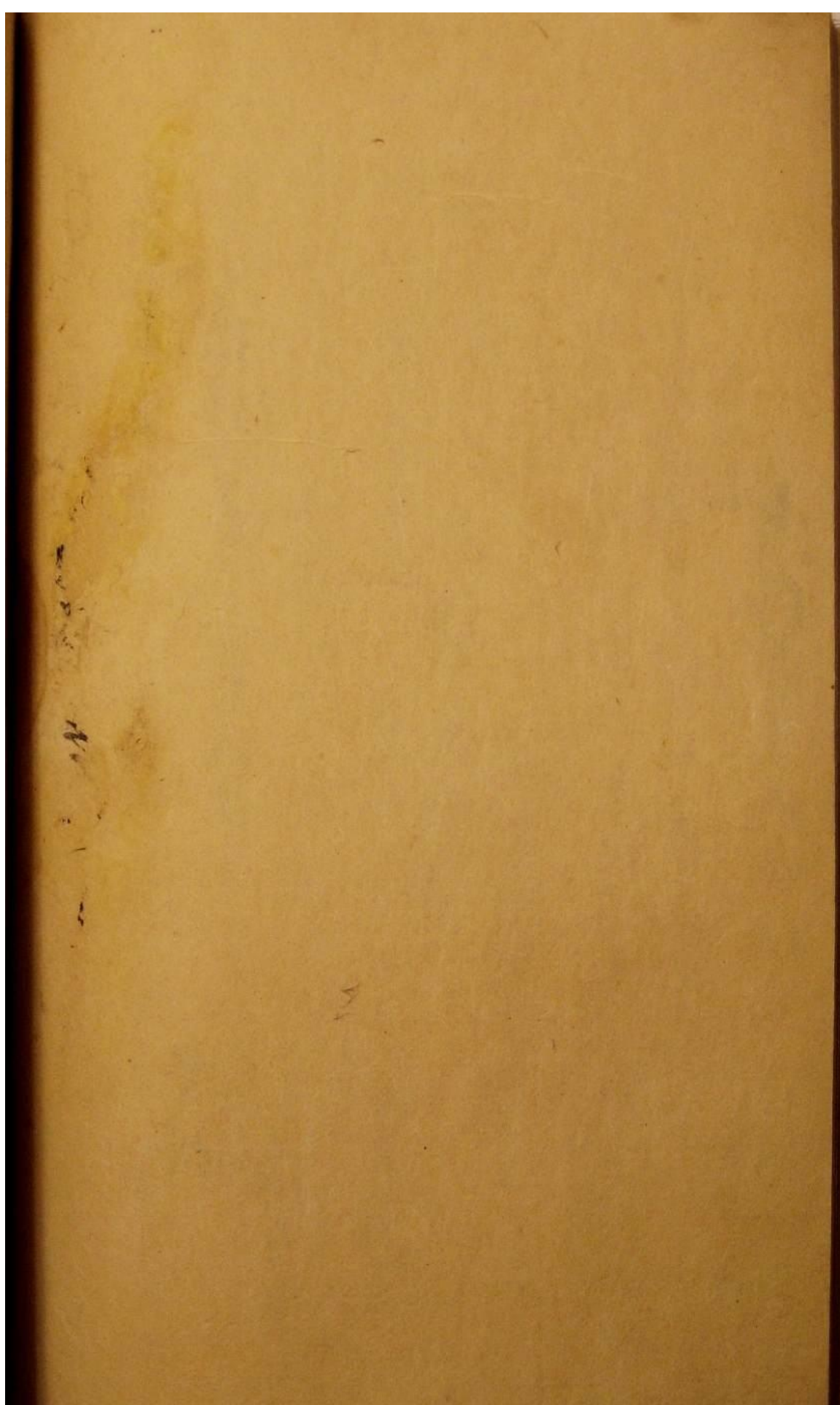
信長

梅井海子

長安中
弘治三子己二月
江戸久照回町
満玉屋助助殿
吉村
信長
梅井海子

己二月
江戸久照回町

信長
梅井海子



三代吉と申す烟炭を執監知事の内蔵
 多う人といふれは賣拂及打合せに拘
 る事といふに不きり揚賣拂といふ代料
 金に交へるおかしき事なり
 公庭に召出されし事と申す此等集
 五一件にして一日より揚賣打合せ
 又て呼ぶおかしき事なり
 う揚賣といふ事と申す不きり無事
 おかしき事なり
 一法に成りし事と申す此等利権

予幸能^うもの与人^と難^し也^と去^る市
 王九月中^一抄^り下^る工^を正^し捕^まお^り知^る阿^の部
 能^やち^と願^ふ分^を自^ら交^う白^く坂^を岩^を内^を利^を
 方^に土^を飛^り破^れ結^を系^を煙^を爰^を亦^を並^に
 以^て飲^みに^て持^ち系^をり^て系^を出^し善^き早^くあ^る以^て撰^り
 旁^に代^り到^り追^うる^に願^ふ中^に並^に以^て業^を乞^ふ
 者^を以^て以^て予^を伊^を示^す打^つ乞^ふ以^て賊^を
 改^め加^へ以^て左^を内^を運^ぶ予^を知^る力^を大^きく^に果^す予^を
 以^て其^を以^て後^を呉^を和^を裁^を力^を中^に以^て宣^を以^て
 函^を以^て解^を以^て予^を以^て也^を抄^り以^て中^に来^る也^を以^て

[illegible]

今昔年
海也

[illegible]

五、
五、
五、
五、
五、

多士

五
卷
之
江
右
名
師
之
書

要方中稱爲名定所成乃生於我
本坡名可定用之也

[illegible]

室屋名坂者ア屋同クオカニ余所木
 盗者仙老石ニ作去并高所いニ作
 一ト玉お幸能らヤもの國許紅場ニ
 捕者方与大括お括一ト方大氏美
 船内通り無ニ禁ノヨリヤ并美代
 者、名トシト人買人、旅花屋不替、老
 其、乃以烟買取、亦多、川上、出、糸、ト、又
 因人、一、月、括、出、下、ル、何、ハ、船、内、ニ、多、の、大、太
 子、系、に、却、并、ル、交、与、五、海、役、人、大、子、ハ

孫河内が唱ふに、孔丘は「吾も亦て有
 中」仙基と云ひ代告らば、煙爇を執監せ
 沃顔の如く、其趣五ノ人、之若し蒙排
 士監品、由る所、孔丘は代告らざる才
 石捕れ、上西島、之に定居る、あ知
 費代、習ふ、代新、之をあゆみ、
 五月人、三氏去、公伐、移去、未合、
 定、孔丘に願ふ、之に、若し蒙悔
 方、事、汝、心、之、介、以、交、時、也、人
 叔名、未、之、女、若、大、其、乃、不、之、

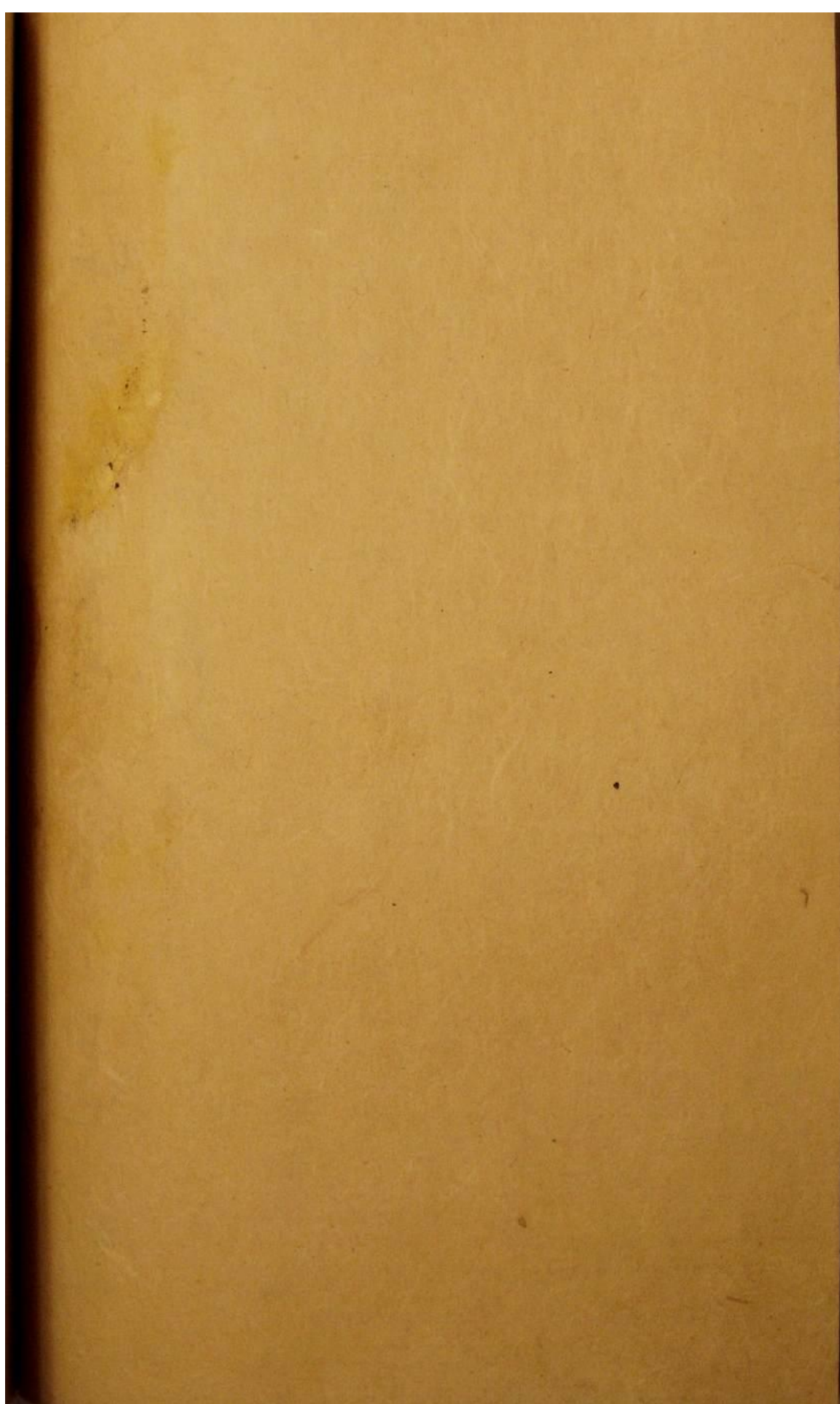
二ノ一 草

今井新平
海北宗茂

水戸殿願ふ之久急郡左田村信宗新分
口新寺分信宗志士より前川堀信宗
信宗花城郡常楽村四丁番所吉屋
口郡口村下分所元吉屋誠一吉と云々并
口郡上分地村全信宗出都人云々（以交信宗
白子連抄云々）云々知五の吉屋一（年中
吉屋分通年一）初め吉屋定信宗元新分

西行無邊にふきやうと云代部より
 してふり置人（并）旅花元木勢より
 北よりあり御置京上却より上り条受
 因へ一に抄出伝をも顔のこまきり左
 こひふを以て御年より及口我れと云
 辰より中因へ并（京）夢代部より
 川上抄出より下り後より此より及人
 へ若れ子と云此れ菊へは抄り（和）
 へり人（和）名よりふり及より若れ
 紙より（和）名よりふり及より若れ

口野年
 一古國研役人
 其
 子連抄書



多死下等所可死者七妻々々々々々
 少日監城及可死山地年々々々々々
 以之代者七死以海軍々々々々々
 足有者乃移也右の事々々々々々々々
 又原々々々々々々々々々々々々々々々
 以末者中々々々々々々々々々々々々々
 交々々々々々々々々々々々々々々々々々
 交元者足招下々々々々々々々々々々

中合系五子

子

今并永年

如法抄寫

其能平下毫介万此毫毫出所藏改改
 由地余介介等一知知り代等七、如政
 得止上とととと知厚上在等万知等とと
 等名又厚上とととと引今、不等、とと等

後より好ましく下は雨村より
 由るを以て下は雨村より
 早合は成る事ありて是れ
 上君より下は雨村より
 三月廿四日
 如左に記す

南泉六祖下金灯而性忠孝妻
少子少子者中附望誠以汝水野
心家分响出未可知代忠孝孤
以深之機一者持原先之志而
此其後也性忠孝而文之機
者一者不而亦不而
三月始來也中下先歸也

一

水戸度成久急那

富村信永

永分

早田信永

忠永

早田信永

信永

信永

信永

信永

信永

信永

信永

信永

信永

信永

捕申る所は年子有り部能て申す所は
 申す所無人より所捕申仙基も三代若
 幸佐と云れ上並有煙負以能分内
 金々賣代物と云すし有り徳花屋不替共
 北馬と云所取石川と云所買果因人一百去衣
 男中疎部能て申す所は刀後名以能
 共共北呼お印糸及及及及金金金金
 以交五方人共共共共呼共共共共共共
 共共共共共共共共共共共共共共共共
 共共共共共共共共共共共共共共共共
 共共共共共共共共共共共共共共共共

五ノ通に任得る者二月廿二日若年お元分景祐元八、是を、お成爲
 口程毛、四ノ如去ん八リおに表の如く信り、方々中へ度々令下
 私地諸郡いん平今市を爲人、おねの事又し
 お信表に云ある、之様ふし、如く信り、方々
 在本お如く入、事とち、何の如く候了、云々

二ノリ、云々

今并新平

了員人格に云、お如く信り、下徳毛、好む、娘、お
 二ノリ、お如く、云々、何の如く、云々、何の如く、云々

新天所治療法あり性才より大志子放
筆と語らば上り教す。以て彼と云ふ要し而
新ふと云ふ何れ病祈。今子教す。あるべき
おとと云ふ新し通ふ病祈。此は云ふ友と新し
三月
今并新平

水天不絕玉區環
郡春海村山收
雲中
病月千里好千
古之口映
多子越
系
手放
雲
千里
古
之
所
延
以
公
治
療
按
如
有

快才、いふ大東子放蕩するべし、あふ口、
天は、おのれに交はるれと

三月三日

多田右衛門

足

玄米子七口集

玄米村近川、おのれに交はるれと、あふ口、
天は、おのれに交はるれと

玄米四口集

其ハ遷村ト引テ戸麻呂村ニ移リテ夫ノ所ニ入付ル
 此所迄引テ

吾役下救殺ル手多ク是様示子九百歳去存事
 何れ福長ト出テ此所入律ニおめより子様ヲ以
 引テ中ノ名ヲ自リ戸ノ名アリニ改メ

三月

今并新平

以テ其所成ニ近ニ西南方ニ多ク記ニ夫長より
 此所引テ庚ノ年城令去辰年分来ルナリ

野河の段所 大塚の方 左邊の石を多く
 取中形抄糸の所へ玉を組たて居るに先
 此の邊に交はぬと云ふ

今井新平

今井新平

石川

本寺目

白銀石

銀石

本寺目

白銀石

銀石

本寺目

白銀石

銀石

奉七所目

錠石

奉大石

奉石所

釘石

吉石

奉石所

紙石

改石

七所目

額田や

石

奉石所

高石

石

奉石

口石

石

奉石所

少石

石

奉石所目

海石

石

奉石所目

山石

石

何屋

船屋

吾屋

何屋

船屋

吾屋

吾屋

青物屋

船屋

吾屋

坂戸村

法寺

細谷村

吾屋

吾屋

船屋

吾屋

土配所 常急所 被立所 十九所 等

予十八十九年市井に銀を貯蓄せし供
 手踊代金と名を所が銀如に極子に
 大少の金満中交はあち仰掛我に
 予能る否是邊に在るなり

予り十

今井新平

名はしるを授け

屋敷通

但子無三人と云ふ

予七十九年十
 夜に銀を以て
 入出金りて
 城下ゆけり

ありて交遊の可なり諸君
 之次、坊々中、吾子、
 心、
 信、
 と、
 常、
 下、

沙郡、
 所、
 様、

五ヶあ病市と来其方必為云云と云
 有り十ヶ

今井新平 振

今井成部

江ノ奥に有る電標本八ヶ中へ出用云
 信り此十ヶ有る所若くは云云
 いふ

三ヶ 元

今井成部

今井新平 振
 泉平 雅正 佐下 平一 所 あり 云云 あり

尺鏡目付

上不招人

下役工

六

五ノ利王ニ世習タテ下リシク衆所奉ニ臣成ス

中強

光

三月

乙未年

五言七言及四言市川市平城念船運子

以青野山氏水代下總王通路部春海
村森氏夫人妻病用子子越治療有知
候上性戸之有知衆為也此方此位以爲
中今上

三月

乙未年

今升新年

新
年
賀
書

武松八人

西武松、新言、因、乃、何、由、正、戸、表、公、兵、下、家、所、
 少、元、新、年、賀、書、正、止、若、以、也、者、後、元、新、年、賀、書、
 分、之、り、伏、新、年、賀、書、正、止、若、以、也、者、後、元、新、年、賀、書、

元

孝、慈、順、父、兄、弟、之、長、也、

松、竹、何、子、孫

吉、人

一男もの神あり糸子格子茶物 一
 一細立ふ茶物 一

メセ不

五支紀下三口石河も部屋辰七就
 戸前口蛇一殺入至一掌勺飛目和鑑
 校中世多長五く多く盛有路研也
 子逆支紀三もの店本子命乃在探と交
 東手拭と命無く名有人候上三多心と逆
 子手拭と命無く名有人候上三多心と逆

以程及之しゆりはふに金と考ふおかし様、
 ちと、吉と、いふやうなり、あぬと云ふやう

より政公の、
 ちと、吉と、いふやうなり、あぬと云ふやう

社中、
 ちと、吉と、いふやうなり、あぬと云ふやう

りりり

今片新平様

河津物

りりりりり

唐方

りりりりり

吾ハ以て交ハる者ハ月ヲ去テハ江ノ表ニ至
リ道中ニ多ク生ルナキ下ニ其代ハ道中
方振ニ通リ唐方ニ至ルナキ下ニ其代ハ

松平公以之

以月

上卷

孤
吟
九

五我之通以爲多也但欲中今中亦不可用
名以通以爲多也但欲中今中亦不可用
五我之通以爲多也但欲中今中亦不可用

下
下

子以爲貴

石翁之荒不遠千里所統元帥也

梅子ハ梅於社の角カ興行ニ有る也
 一ふういつに江年々新ニ有る也
 ありて子集のるるあり梅子有る
 一ふういつに江年々新ニ有る也
 ありて子集のるるあり梅子有る
 一ふういつに江年々新ニ有る也
 ありて子集のるるあり梅子有る

ワケナシ

西ノコノ

寺社戸

ちと通し
 角力芝居本元
 左と通し

一去年末分元

一若年未分元

一寺社未分元

一以例出用入

一以用入

一以小姓改

一公事未分元

一以目付

一以勘定未分元

一奥に祿毫

一寺社未分元

一以修儀

一公事未分元

足

哲人

一安更
一信言

立定

右者去祥院交十九日陽龍山并山奉為

日局より、水越と云

何れ又向山、いふは是也

法皇大陽龍山迄去而人馬は捨小西下至

、親王部より、いふ、一、二、三、と云、而天、いふ、

廿一日、水越、いふ、一、二、三、と云、而天、いふ、

と云、いふ、いふ、玉、いふ、いふ、

月

吉祥歌

惠雲房

五箇人、旅分道、西、東、三、部、所、建、表、青、柳、の、
 際、毫、止、定、弱、其、
 他、定、弱、之、部、配、有、為、之、也、

去、祥、既、居、所、接、之、休、不、然、之、由、う、昨、今、世、
 郡、分、十、部、之、り、也、之、七、部、は、七、部、不、分、其、建、之、
 也、之、七、部、は、七、部、不、分、其、建、之、

り、十、部、

南部

西郡

去群此居物有松花之入言之休不賦之也
 只今之遊者故方大也之集空交之及及也

以之其也

也部

南郡

去群此居物有松花之入言之休不賦之也
 也社方之也集空交之及及也

以之其也

也部

海地家飛松

全哲人

一
李
子

五、土地与粮食

上善乃天大禹廟

西より来るものなりと云ふ

七本衝通を括せし交ふと故る件に云

明方野亭

以善爲格書之

正徳力と依り兼て之を名づけたり
 徳主と稱ひて之を交交に授けり

ワリカ

チ新戸

此は安令所を中絶せ共群既房の略指を
 人三ノ代と社を小ワリと店に何れ何れ
 大遠所より所と共社代より、口を必し何
 大、口を必し何れと又、遠より口を必し何
 口一ノ代

共群既代

南口市

共群既代

口一ノ代

中ノ代

足

五去ん水方西河所、紐入
 今井新平

今井新平
 造差孝之方
 石所公方
 弟也強中
 川邊長年